

沈め牛勿
大都院の地土易さん業



四年一組
曾我瑞希

もくじ

はじめに

○きっかけ	1
○今年のテーマ	2
○調べてみたいこと	2~3

第1章 なぜ落合で染め物がさかんになったのか

1. なぜ落合で染め物がさかんになったの？	4~6
2. 川で染め物を洗う様子を見てみよう！	7

第2章 どんな染め方があるのか

1. 染め物にはどんな種類があるの？	8~10
2. いろいろな染め物にチャレンジ	
（1）二ホンアカネで染めてみよう！	11~13
（2）江戸更紗で染めてみよう！	14~16
（3）江戸小紋で染めてみよう！	17
3. 昔は染め物の染料はなにからとっていたの？	18~19

第3章 花や草で染めてみよう

1. 身の回りの物で染めてみよう！	20~26
-------------------	-------

第4章 藍について

1. 藍を育ててみよう！	27~30
2. 藍でたたき染めをしてみよう！	31~32
3. 藍染めをしてみよう！	33~35
4. 藍染めはいつからあるの？	36~37
5. 藍は染めるとなんで青くなるの？	38~39

第5章 伊勢型紙について

1. 伊勢型紙ってどんなもののなの？	40~42
2. なぜ伊勢型紙が落合で使われるようになったの？	43
3. 伊勢型紙をつくってみよう！	44~45
4. 型紙にはどんな模様があるの？	46~49

○終わりに	50
○参考文献	

【ふろく】

1. 二ホンアカネの絞り染め	
2. 江戸更紗	
3. 江戸小紋	
4. 藍の絞り染め	
5. 伊勢型紙	

〇きっかけ

わたしは、新宿の染め物について調べたい。理由は下の4つだ。

- ・4年生の社会の教科書に「新宿区は染め物が有名」ってのっていたから。
- ・私が住んでいる場所は新宿区とくっついていて、すごく近くて、どうして染め物がさかんなのか気になったから。
- ・新宿区の近くに住んでいるけど、染め物屋さんを見たことはなくて、本当に染め物がさかんなのか気になったから

〇中井で毎年やっている「染めの小道」というイベントに行ってみて染め物にきょうみを持ったから。



染めの小道の様子 📷 母



染めの小道で体験した百人染め 📷 母



高田馬場駅前のかべの絵 📷 私

○今年のテーマ

…というわけで、今年の自由研究のテーマは

染め物 — 大都会の地場さん業 —

に決定！！

○調べてみたいこと

もう知っていることと、知りたいこと、調べてみたいこと、やってみたいことを
き出してみた。【次のページ】

調べたい内容によって、3つにわけることにした。

第1章

なぜ落合で染め物がさかんになったのか

第2章

どんな染め方があるのか

- (1) どうやって染めるのか（染め物の種類）
- (2) いろいろな染め物にチャレンジ
- (3) どんなもので染められるのか（染料の原料）

第3章

花や草で染めてみよう

第4章

藍について

第5章

伊勢型紙について

追加!!!

しっていたこと

しらべたいこと

ニホニア

カネという植物でそめられる

北米の人びとの
きものなど
もニホニア
カネでそめ
られていた

昔ながらのほろな
みの京都が有名そう

昔から
あった

ぬのをそめる
こと

きもの
や帯

教科書に
のっている

身のまわ
りにもある
ものでそ
められる

花や
草を使う

そめもの

そめの小道
というそめもののイベント

どんなそめ
方があるか

なぜしんじゅく区
でそめものが
んなのか

草木染め
をじっ
さいにや
てみたい

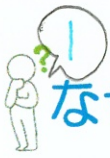
どんな
もので
そめら
れるのか

どうやって
そめるの
か

第1章

なぜ落合で染め物が
さかんになったのか

1. なぜ落合で染め物がさかんになったの？	4～6
2. 川で染め物を洗う様子を見てみよう！	7



なぜ落合で染め物がさかんになったの？

新宿区は都庁がある場所だし、新宿区にある新宿駅は世界で一番たくさんの人が使っている駅だと社会で習った。そんな東京都の中でも栄えている場所で、昔のイメージがある染め物がさかんになったのはなぜなのか気になった。

考える

下落合の駅のあたりにある川が染め物を作るのに使われているから。

調べる

図書館の本や、「染めの里 おちあい」の資料で調べたりする。【参考文献12、16】

わかったこと

①川が近く、きれいな水が豊富

平和な江戸の時代に入り、武士の人も、いっぱん市民も、生活文化を楽しむようになり、着物を使うことがふえていき、多くのおしゃれをたのしめるようになり、いろいろな色や柄の着物が着られるようになった。染め職人たちは、いろいろな染め方にもチャレンジした。しかし、江戸幕府は、武士にも、いっぱん市民にもぜいたくをきんじる法令を出しました。いしょうにおいても使える色をせいげんするなど、日常生活をせいげんした。しかし、幕府にせいげんされても、もっとおしゃれをしたい人たちが増えていった。

江戸の後期には、神田川流域の神田や隅田川流域の浅草で染め物がさかんになり、明治には神田川下流域の小石川のあたりに染物屋が多くなった。しかし、明治・大正の時代になると、染め職人は、よりきれいな水をもとめ、神田や小石川より上流の新宿区の落合に集まってきました。落合は「神田川と妙正寺（みょうしよ

うじ) 川が落ち合う場所」という地名の由来だそうで、その由来からも分かるように、水がたくさんあり、美しい流れをたたえていました。染色で水洗いは、欠かせない工程なので、よりすんだ水を必要とするので、落合はそめものをするのにふさわしい所だった。

Google Map で調べると(地図①) 新宿区の落合にそめものを作るお店が集まっているのがわかった。また、拡大してみると(地図②) 神田川と妙正寺川にそめものを作るお店が集まっているのがわかった。



①地図1 東京都の染色工房の分布 ②地図2 新宿区の染色工房の分布
どちらも GoogleMap より引用

②着物の消費地が近い

「染めの里 おちあい」の資料によれば、創業者の一人の小林繁雄さんは、「流行を追う色柄の選択はなんと言っても消費地に直結して行われる事が望ましく、交通の不便な山間の町では伝統の技法こそ継承されはして来たものの、産業的発達には自ら限度があった。」と「そめの一代」という本に書いているそう。川が近く、きれいな水が豊富な場所はほかにもあるけど、着物がたくさん売れ、柄や色などの流行が分かる場所が近いのは落合だった。

上の2つの理由から新宿が新宿区の落合で染め物がさかんになったということがわかった。

染め物を作るという観点からも、染め物を売るという観点からも落合は染め物をつくるのにうってつけの場所だったということがよく分かった。

染め物と上いえば、「京都」というイメージがあったけど、調べてみると、京都も川がたくさんあって（鴨川や桂川（かつらがわ））しかも、江戸、大阪とともにさかえていた場所で、落合と条件が似ているということに気が付いた。





川で染め物を洗う様子を見てみよう！

7月19日（土）「神田川 水べの染め体験」が戸塚地域センターでやっていたので行ってみた。

そこでは、「水元」という工程を見学することができた。新宿区染色協議会の方によれば、「水元」は糊や余分な染料を落とすために反物を水にたたきつけながら水洗いする染色の工程の一つで、昭和30年代まで神田川で実際に行われていたそう。今は環境を守るために川で染め物を洗うことはないそうだ。

「水元」の手順は、

- ①下の写真のように重しをつけた竹の棒をおく。
- ②河原から染めた反物を川に入っている職人さんに向かって投げ入れる。
- ③反物を受け取った職人さんは反物を振って染料や糊を落としながら反物を手早く広げ、反物がねじれないように気をつけながら竹の棒に引っ掛ける。

昔は何軒もの染め物工房があったので、上流から染め物が流れてくることもあったそうです。また、一日50反もの反物を川で洗っていたそうで、冬には頭の上に雪が積もることもあったそう。

わたしだったら、冬は出来ない気がする。なぜなら、寒くて外すら出たいと思はないのに、寒い中外に出て冷たい川の水を遊びながら、あらわないといけないからだ。

実際に見学してみると13m（一反）もあるのをからまないようにするのがむずかしそうだった。



神田川水べの染め体験「水元」の様子 ■ 私



第2章

どんな染め方があるのか

1. 染め物にはどんな種類があるの？	8～10
2. いろいろな染め物にチャレンジ	
（1）ニホンアカネで染めてみよう！	11～13
（2）江戸更紗で染めてみよう！	14～16
（3）江戸小紋で染めてみよう！	17
3. 昔は染め物の染料はなにからとっていたの？	18～19

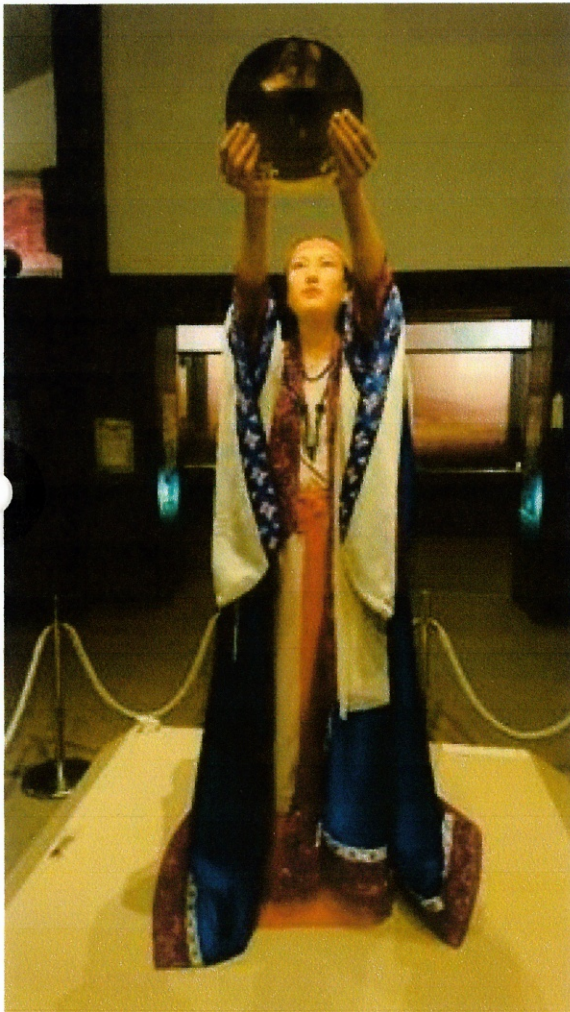


染め物にはどんな種類があるの？

「染めの小道」に行ったときに、いろいろな染め方の種類の説明が展示されていたから、いろいろな染め方があると思う。だけど、どんな染め方があるのかをちゃんと見てきていなかったから調べてみたい。

考える

植物で染める方法はあると思う。なぜかというと、2年生の時に卑弥呼について調べたときに卑弥呼の着ている赤い洋服は、貝や植物で染めていると書かれていたから。



←卑弥呼の服

【大阪府立弥生文化博物館でさつえい】



【みえぎょれん HP より引用】

アカニシはかいの中が赤いんだって。かいをつかってそめるなんておもしろいね。



↑ニホンアカネ

【一般社団法人日本アカネ再生機構 HP より引用】



ニホンアカネはねっこが赤いんだって。いまでもそめものにつかうことがあるみたいだよ。



2年生の時の自由研究より引用

調べる

本やインターネットで調べたり、「神田川 水べの染め体験」にいったりして調べる。【参考文献11、12、15、16、18、8】

わかったこと

調べてみると、大きく分けて10この種類があることが分かった。

①友禅染め

糸会

画的な柄を表現できる技法で、加賀友禅、京友禅、東京手描友禅などがある。



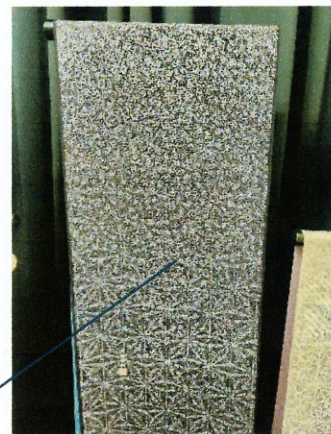
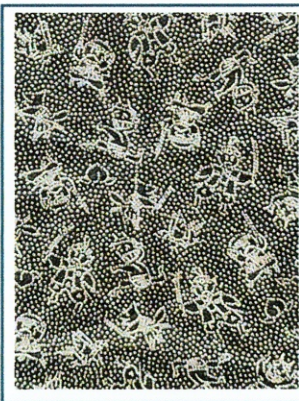
「染めの小道」での東京手描友禅の実演
私

②江戸小紋

細かい模様が特徴で、武士の袴（かみしも）に用いられていた。

* 袴：江戸時代の武士の礼装・正装。

小紋をよく見てみると「桃太郎のキャラクターになっているよ！」と職人さんが教えてくれたよ。ただ模様だけでなく、こういうちょっとかわったのもあるんだね。



「神田川水べの染め体験」に展示されていた江戸小紋
私

③更紗染め

インド更紗をまねた染物で、唐草模様などが代表的。

④ 関西万博インド館に展示されていたインド更紗

私

⑤ 江戸更紗

東京都産業労働局 HP より引用



④琉球紅型染め

沖縄の伝統的な染物で、鮮やかな色彩と力強い柄が特徴



琉球紅型染め

伝統工芸のきほん④より引用

⑤有松・鳴海絞り

愛知県有松・鳴海地方で発展したしぼり染めで、
どくとくの立体的な模様が特徴。



有松・鳴海絞り

伝統工芸のきほん④より引用

⑥京鹿の子絞り

京都府のしぼり染めで、鹿の模様が特徴。



京鹿の子絞り

伝統工芸のきほん④より引用



有松・鳴海地方の場所

GoogleMap より引用

⑦ろうけつ染め有松・鳴海絞り

とかしたろうで模様をそめる技法。

⑧藍染め

藍の葉からちゅう出した染料で染められる技法

⑨草木染め

植物の葉や実、根などからちゅう出した染料でそめる技法。

⑩しぼり染め

布をくくったり、ぬいぢめたりして染める技法。

「染め物」っていう一つの言葉だけど、実は、こんなにたくさんの染め方があるって、一つ一つの染め方にその染め方専門の職人さんがいるということを知ってびっくりした。



②いろいろな染め物にチャレンジ! ニホンアカネで染めてみよう!

「染めの小道2024」でニホンアカネの絞り染め体験ができたからやってみることにしたよ。ニホンアカネは卑弥呼の洋服を染めるためにも使っていた植物だよ（ 8 ページ）。

①染色液づくり

かんそうさせて、細かく切ったニホンアカネの根っこを水に入れる。火をつけ、ふっとうしたら弱火にして、お酢を入れ、1時間くらい赤い色がでるまでになる。

ニホンアカネの根をとったら完成!

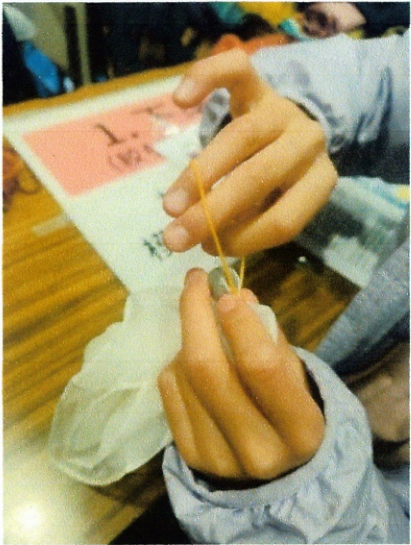
かんそうしたニホンアカネの根っこを見せてもらったよ。細い根っこで、色は赤と茶色の間みたいな色だったよ。においをかいでみたら、ごぼうみたいなにおいがしたよ。どこにでもありそうなふつうの根っこで布が染まるなんではじめはだれが気が付いたんだろうって思ったよ。



ニホンアカネの染色液をつくっているところ

母



工程	やり方
① 下 準 備	 布をむすんだり、ビー玉を布に入れて輪ゴムでしばったりして、模様が出るようにする。（この時によろしくしめると模様がよくでる。）
② 地 入 れ	 水に 10 分ぐらい①の布を入れる。
③ 染 色	 染色液に②の布を入れ、10 分か 15 分ぐらい割り箸を使いその布をゆらす。

工程	やり方	
④ あ く 処 理		焼きミョウバンをとかした水に10～15分入れる。③と同じように、割りばしで布を動かす。  染色液に入れたときには黄色だった布が、焼きミョウバンをとかした水に入れたら一気に赤くなったよ。面白いね。
⑤ 水 あ ら い		水に④の布を入れ、布をほどいたり、輪ゴムを外したりする。
⑥ 完 成		乾いたら完成！ 完成したものは ふろく 1 に  弥生時代からある二ホンアカネ染めが令和の今まで正確に伝わっているのがすごいと思った。昔はなべもあったけど貴重だったし、火をおこすのも時間がかかったと思うから、染めるのは大変だったと思う。えらい人しかこういう服が着れなかったのも当たり前だった。

江戸更紗で染めてみよう！ (2)

「染めの里 おちあい」で江戸更紗の
テーブルセンターづくりにチャレンジ。



工程	やり方
使ったもの	・綿 100%の布 ・伊勢型紙 14 種類 ・染料6色 ・丸はけ
準備	板に霧吹きをかけて、その上に布を置く。布の上に型紙を置いて、四隅にある印（まる）を書く。



この板には1年に1回米粉ののりを塗るんだって。だから、霧吹きをかけただけで布がペタッとくっついたよ。14枚も型紙を使うから、型紙を合わせる目印として型紙の四隅に印がついているよ。
染料をぬる「丸はけ」は小鹿の毛でできているそうで、さわってみるとやわらかくてサワサワした。

工程

染色



丸ばけを縦、横にまんべんなく自分の好きな色になるまでうごかす。また時々型紙をめくって色を確認する。



先ほどやった染色をくりかえす。



染色おわり。

同じ型と同じ染料を使ったはずなのに、なんで兄の江戸更紗と色合いがちがうのかふしぎだった。



工程	やり方
	  染色した布を 15 分 ぐらい高温でむす。

母

完成したものは

ふろく 2 に

型は、「伊勢型紙」を使っていると言っていたけれどどうやって作っているのか、また、どういう紙を使っているのかが気になった。 (→40 ページへ)

あと、型には、どんなしゅるいがあるのかが気になった。

(→46 ページへ)

また、染料は、花とっているのか、野菜からとっているのか調べてみたいと思った。 (→18 ページへ)

今回はテーブルセンターで布の長さが短かったから型を横にすらすことはなかったけど、職人さんは型の模様がつながるように上手に型を動かすそう。型を考える人もすごいなと思った。





江戸小紋で染めてみよう！

(3)

「神田川 水べの染め体験」で江戸小紋に挑戦！

工程	やり方
準備	• 型 • 染料(米粉のりで染料を溶いたもの) • 染める物 (今回はバッグ)
染める	トートバッグの上に型紙をおいて、染料を木の板で塗っていく。その際、木の板を少し斜めにする。また、前にぬった所の半分の所にぬる。
完成	全体的にぬったら型を外す。乾かして染料が乾いたら完成。 完成したものは ふろくろ に



一枚の型に染料を塗っただけで、色が付いて模様になって、すごいと思った。「昔は、乾かすのに時間がかかって作るのが大変だな」と思った。



昔は染め物の染料はなにからとっていたの？

藍を使えば「青」、ニホンアカネを使えば「赤」に染まるということはわかったけれど、ほかの色の染料は昔はなにからとっていたのか気になった。

考える

今の洋服はインクを使った印刷をしていると思う。だって、江戸更紗の体験をしたときに、同じ型紙、同じ染料を使った私と兄で、完成した作品の色がちがっていた。だから、何枚も同じものを作っていると色が変わってきてしまうので、今はインクを使った印さつをしていると思う。でも、しょく人さんが言っていたように、昔はほとんどの物が植物などからとった染料を使っていると思う。

調べる

本を使って調べてみる。【参考文献 7 】

わかったこと

染料は、2しゅるいあって、化学染料と、天然染料がある。

(1) 化学染料

1800年代後半にヨーロッパで人工的に作られたもので、石油やコールタールが原料になっている。工業的に作られているので、一度に大量に作ることができ、染料の質が安定していて、色の調整がかんたんにできることから、現在の洋服などにつかわれている。

(2) 天然染料

花や虫、貝の内臓が原料である。また、やさしい色合いがとくちょう。代表的な天然染料として、藍の葉から作られる藍染め液などがある。昔、ジーパンは、藍で

そめためていたらしい。染料にはいろんな色がある。よく使われていたものを次の表に表した。緑は天然染料で染められるものがなく、青色の藍と黄色の染料（ウコンなど）のかさねぞめをしていたそうだ。

色	なにが原料になっているのか
むらさき	貝（アカニシカイ）の内臓 紫鉱（ラックダイガラムシのオスが樹皮に出したヤニじょうのかたまり）
黄色	ウコン クチナシ
赤	紅花 茜 コチニール（サボテンに寄生するエンジムシからとれる色素）
青	藍
黒	やまももの樹皮
緑	藍とウコン

染料に2種類あるということを初めて知った。天然染料では、花や虫を使っていてびっくりした。虫から染料が作れるなんて誰が気が付いたんだろう。また、昔、ジーンパンは、藍で染められていたということが分かった。化学染料のおかげでたくさんの洋服が一気に作れるようになって便利になったし、洋服が安く買えるようになったんだなと思った。でも、化学染料は、石油やコールタールが原料になっているから環境に良いのは天然染料だと思った。



第3章

花や草で染めてみよう

1. 身の回りの物で染めてみよう！

20~26



身の回りの物で染めてみよう！

卑弥呼の時代くらい昔の人から植物や貝などで布を染めていたから身の回りのもので手軽に染め物ができるのか気になったから試してみることにした。

考える

江戸更紗染めの時に、職人さんが「着物を作るときに使うものは、全部食べられるものや自然の物を使っています。」と言っていたので、私も食べられるもので、しかも、SDGs のことも考えて食べ終わって捨てられるものを使って染めてみることにした。

染色液をつくる食材は次の8種類にした。次のページの表が染まる色の予想だ。食材と同じ色に染まると思う。

調べる

本を使って、染色液の作り方や染め方を調べる。【参考文献 4 】

食材	染まる色の予想
① 玉ねぎの皮 	茶色
② ピンクグレープフルーツの皮 	ピンクとオレンジの中間
③ 巨峰の皮 	うすいむらさき
④ パイナップルのしん・皮 	レモン色
⑤ 人参の皮 	赤とオレンジの中間
⑥ ナスのへた 	こいむらさき
⑦ コーヒーの出がらし 	茶色
⑧ ローズhipプティの出がらし 	赤

染め物につかう食材と予想 🇯🇵 私

①布の準備

布には染まりやすい布と染まりにくい布がある。絹は動物のタンパク質をふくんでいるため染まりやすいが、綿や麻は植物からできておりタンパク質がふくまれないため染まりにくい。なので、綿や麻をよく染めるためにタンパク質をふくませることでよく染まるようにすることができる。そこで使うのが、大豆をしばってつくられた豆乳である。

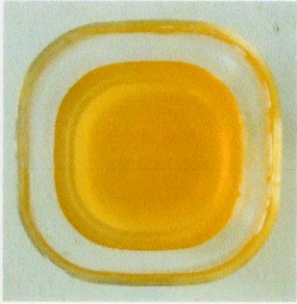
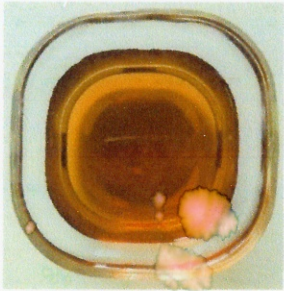
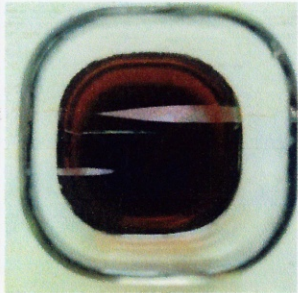
工程	やり方
豆乳下地	豆乳に布を入れて5分以上よくもむ。 そのまま10分つけておく。ときどき上下をひっくり返す。
	洗わずによくしぼり、広げて干す。

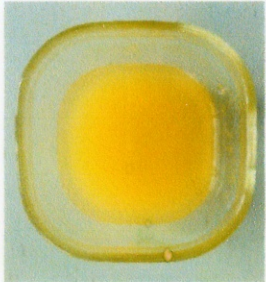
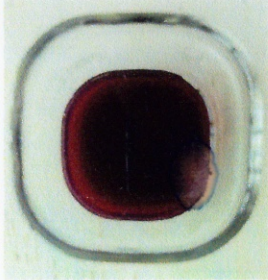
植物がもっている色は金属と仲良くくっつきあう性質をもっている。また、洗っても色が落ちにくくすることができる。布に金属成分をくっつけてこうかを出すことを「ばいせん」という。今回は硫酸カリウムアルミニウムを加熱した「焼きミョウバン」を使うことにする。

工程	やり方
ばいせん	  ボウルに焼きミョウバン（大さじ2）を入れる。1ℓのお湯をボウルに入れて焼きミョウバンをとかす。ミョウバンがとけたら2ℓの水を加える。
	 みょうばん液に豆乳下地をした布を入れ、5分はゆっくり動かしてよく液を染み込ませる。その後、時々布の上下をいれかえながら10分間動かす。軽く水洗いをする。

⑦染色液づくりと染色

工程	やり方
染色液づ	なべに染色液の原料と水を入れ、火にかける。
	ふっとうしたら弱火にして20分くらい煮る。
	火を止めて染色液の原料をすくいとる。
染色	染色液が温かいうちに布をいれる。15分くらいつける。 
	軽く水洗いして干す。

食材・作っている様子	完成した染色液	染めた布
⑤ 人参の皮 		
⑥ ナスのへた 		
⑦ コーヒーの出がらし 		
⑧ ローズhipティの出がらし 		

食材・作っている様子	完成した染色液	染めた布
① 玉ねぎの皮 		
② ピンクグレープフルーツの皮 		
③ 巨峰の皮 		 ばいせん & 豆乳下地あり
④ パイナップルのしん・皮 		

食材と同じ色に染まると予想していたけれど、全然違う色になるものが多かった。特に、ナスは染色液をの作りはじめは青と緑の中間の色をしていたけれど、時間がたつと染色液が茶色になって、布を染めてみると灰色になって不思議だった。

また、焼きミョウバンばいせん&豆乳下地がありとなしとでは、ぬのの染まり具合がぜんぜんちがったから、焼きミョウバンばいせん和豆乳下地の大切さがわかった。

あと、染料は、家でも原料があればすぐにできるということがわかった。また、すててしまう物でも、染料を作れるということが分かった。他にも、イチゴのへたやリンゴの皮、キウイの皮、みかんの皮など捨ててしまうもので染料がつくれそうだから、時間があるときにためしてみたいと思った。



第4章

藍について

1. 藍を育ててみよう！	27～30
2. 藍でたたき染めをしてみよう！	31～32
3. 藍染めをしてみよう！	33～35
4. 藍染めはいつからあるの？	36～37
5. 藍は染めるとなんで青くなるの？	38～39



藍を育ててみよう！

染め方の種類の中に「藍染め」というのがあった。母が「藍は家で育てられると思うよ。」というので、家で育てて藍染めをしたい！！

調べる

(1) 藍の種類

(2) 藍の育て方 について本やインターネットで調べてみる。【参考文献2,3,9】

わかったこと

(1) 藍の種類

インディゴという青く染まる色素をふくむ草を「藍草」という。

日本では「タデアイ」、沖縄では「リュウキュウアイ」、インドでは「インドアイ」、ヨーロッパでは「大青（ウォード）」という草が使われてきた。

	タデアイ	リュウキュウアイ	インドアイ	大青（ウォード）
科	タデ科	キツネノマゴ科	マメ科	アブラナ科
高さ	60 cm～1 m	60～90 cm	1～2 m	90 cm
タイプ	1 年草	常緑の低木	常緑の低木	2 年草
原産	東南アジア	インド	インド	ヨーロッパ
写真				

(2) 藍の育て方

(1) で調べたところ、種で育てられるのが「タデアイ」だったので、「タデアイ」の育て方を調べてみる。

月	作業	染め方
1月	土づくり	
2月		40 cm四方に 200～300 つぶをばらまき、そのうえから土をかぶせ、たっぷり水をあげる。
3月	○ たねまき	
4月	○ 発芽	1～2週間くらいで芽がでたら、たっぷりと水をあげる。その後は、かわいたら水をあげる。
5月	□ 間引き	2 cm四方に 2～3 本をのこして、ほかは間引きする。
6月		
7月	★ 肥料	たたき染め
8月	★ 肥料	生葉染め
9月	✿ 開花	
10月	△ たね取り	花が咲いてしまうときれいな青に染まらなくなる。実が茶かっ色になったら、良く晴れた日にくきからたねをしごきとり、1日くらいかけて日かげでかんそうさせてからビニールぶくろにいれ、冷そう庫で保存する。
11月		
12月		

藍の種を植える時期が3月～4月って知ったのが5月だったから、大急ぎで種をうえることにしたよ。うまく育つといいな。



(3) 藍の栽培・観察

観察日	写真	気付いたこと・様子
5月11日		種を植えた。種の色は茶色。 とがっている部分がある。 大きさは1mmぐらいある。
5月25日		子葉が出てきた。子葉の大きさは8mmぐらい。くきの高さは1cmぐらいある。ちっちゃいからまだまだのびそう。
6月1日		本葉がでてきた。本葉はちっちゃい。2cmぐらい。くきの高さは2~4cmぐらいある。

観察日	写真	気付いたこと・様子
6月22日		えだわかれしはじめた。本葉の数がふえてきた。1つの茎に5枚くらいある。くきの高さは5～10 cmぐらい。
6月29日		先週よりも本葉の数がふえた。本葉は大きくなった。3～5cmくらい。くきの高さは10～15 cmぐらいある。
7月13日		先週より本葉の数が増えて、高くなっている。葉の色が前より黄緑色っぽくなっている。くきの高さは15～17 cmぐらいある。



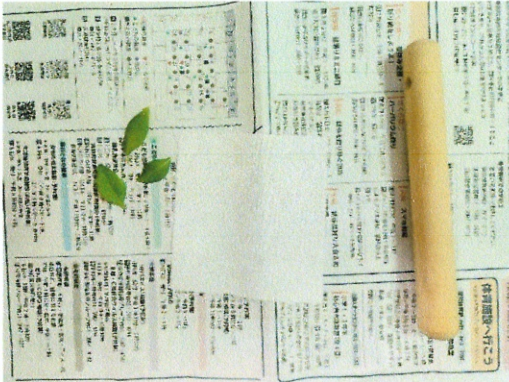
本当は染め物の種類⑧藍染め(10 ページ)をやってみたかったんだけど、思ったよりも育たなかったから、本にのっていた「たたき染め」を試みることにしたよ。藍染めは家の近くの染め物屋さんで体験をやっているみたいだから行ってみるよ。
この後、10月になったら種が取れるといいな。

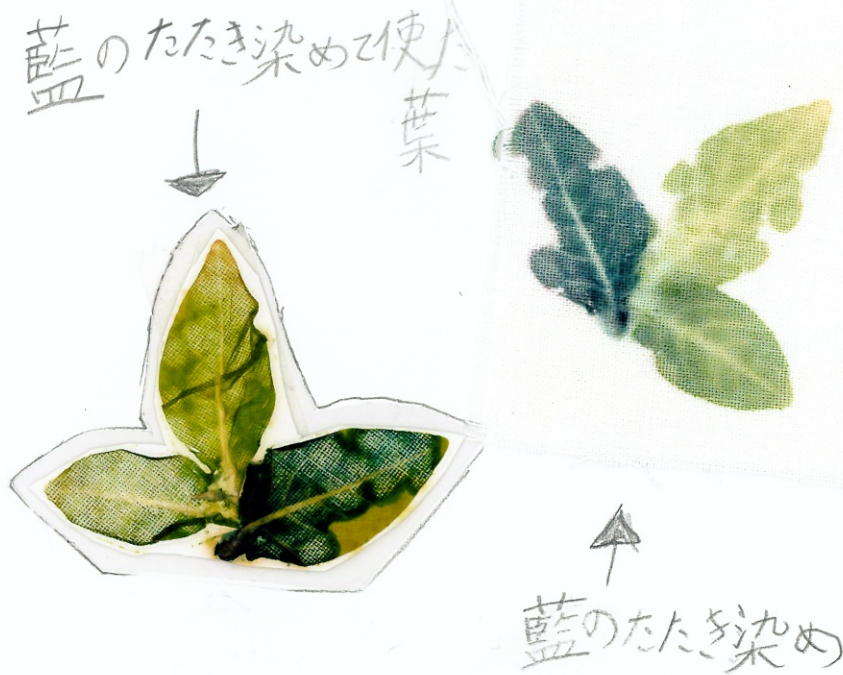


藍でたたき染めをしてみよう！

家で育てた藍でたたき染めをしてみたよ。

【参考文献4】

工程	やり方
用意するもの	 • 藍の葉 • 布（綿 100%） • 棒 • 薄い紙
染める	 布の上にすきなようにあいの葉をおき、その上にうすい紙をおきあいの葉をおいたところをぼうやハンマーでたたく。
完成	 たたいて、あいの葉の模様が布にうつったら完成。



藍を布の好きな場所に置けば、好きな模様が作れるし、布と藍があれば、すぐにできるから、すぐにできて、よいとおもった。また、布が大きければ大きいほど模様が作れてよいと思った。あと、藍の絞り染めは、青くなったのに、何で、藍のたたき染めは、青くならなかったのかが気になった。また、藍のたたき染めは、他にもどんなものに染められるのかが気になった。

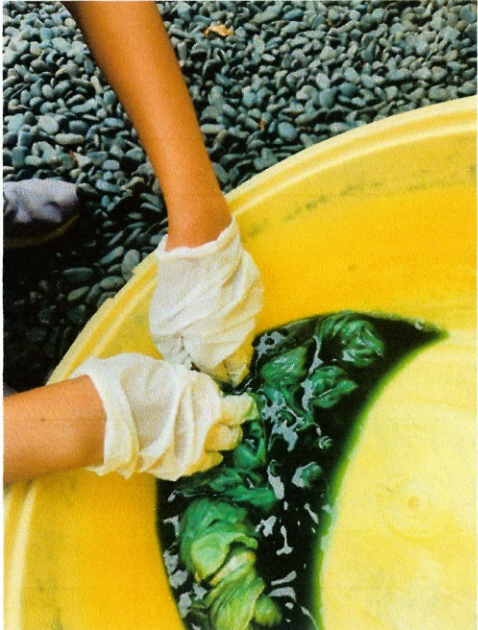


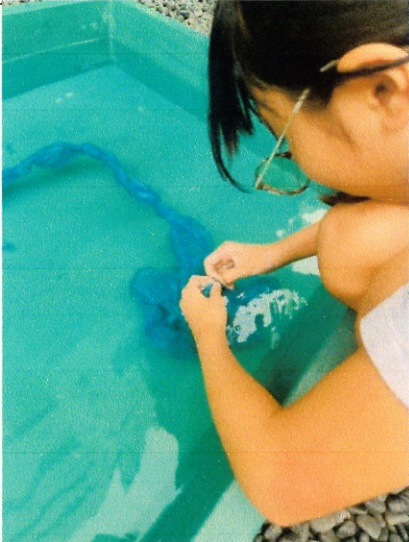


藍染めをしてみよう！

「染めの里 おちあい」で藍染めにチャレンジ！

工程	やり方
下準備	 布をむすんだり、ビー玉を布に入れて輪ゴムでしばったりして模様がでるようにする。このときつくしばると模様がよく出るようになる。  今回使った布は、絹だよ。絹は、綿と比べるとキラキラしたやわらかい布だったよ。
染色液づくり	 藍の葉を 15 枚ほど選ぶ。(この時、藍の葉はできるだけ虫に食われてなく、大きいサイズののがよい。)  今回使った藍は「リュウキュウアイ」という種類なんだって。我が家で育てている「タデアイ」よりも背丈も高くて、葉も大きかったよ。職人さんに聞いてみたら、「タデアイ」は暑すぎでここ数年は育ちが悪いんだって。やっぱり沖縄（琉球）の藍は暑さに強いんだろうなって思ったよ。  藍の葉を 15 枚ほど選んだらその藍の葉をちぎる。

工程	やり方	
染色液づくり		ちぎった藍の葉を藍の葉の汁が出るまでミキサーにかける。
		ミキサーにかけたら藍の葉の汁だけを取り出す。
染める		その汁に布を10分ほど入れ、よくひたす。(グラデーションにしたい人は、色をこくしたいほうからいれるとよい。)

工程	やり方	
洗う		水にいれ、輪ゴムでしばってあったビー玉やむすんでいた布をほどきながら余計な染料を落とす。
色どめ		色止め（過酸化水素）が入っている水に布を入れる。
完成		水に入れた布を乾かしたら完成！ 完成したものは ふろく4 に 完成した染色液は緑色だったのに、布を染めて作業をしているうちにどんどんきれいな青になっていてびっくりした。→ 38 ページ



同じ染色液、同じ布で染めた母は、私よりもうすい青色になっていて不思議だった。
二ホンアカネ染めは卑弥呼の時代（弥生時代）からあるけど、藍染めはいつからあるのか気になった。→ 36 ページ



藍染めはいつからあるの？

藍染めを体験してみて、いつから藍染めがあるのかが気になった。

考える

卑弥呼の時代（弥生時代 紀元前4世紀～3世紀後半）にはもう洋服を染めていたみたいだから、きっと藍染めもそのころからあったと思う。今みたいに絵の具とがあるわけではないから、昔の人は植物で染めるしかなかったと思う。

調べる

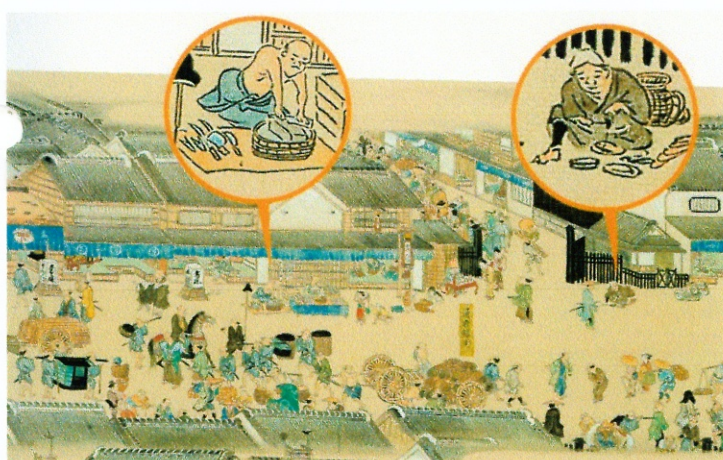
本で調べてみる。【参考文献1、2、3、10、11】

わかったこと

藍染は世界のいろいろなところで昔から使われていたようで、始まりは国によって違う。もっとも古いのは、西アジアで紀元前6000年ごろから藍が使われれていたようだ。

日本には、5世紀ごろ（古墳時代）に中国や朝鮮半島から来た人によって伝えられたと言われている。正倉院の宝物には青色にそめられたものがいくつもあることから、奈良時代に藍染の技術があったことが分かる。平安時代になると阿波（現在の徳島県）で「タデアイ」がさかんに栽培されるようになった。室町時代になると、「すくも」という藍の生葉を乾燥、発酵（はっこう）させてつくる染料の原料の生産が始まった。現在でも、「すくも」の状態で取引されている。沖縄では「リュウキュウアイ」や「インドアイ」が栽培されていて、「ちんでん藍」という方法で染料液を作ってきた。江戸時代になると木綿の栽培がさかんになったことにより、藍がよくつかわれるようになった。藍は、洗うと色が落ちていくが、それはそ

れできれいな色であった。また、藍には繊維を丈夫にする働きがあり、薄くなっても染め直すことができるので、庶民によく使われていた。明治時代に日本にやってきた小泉八雲（イギリス人の新聞記者）は「青い屋根の下の家も小さく、青いのれんを下げた店も小さく、青い着物を着て笑っている人も小さい」といったほど、日本は藍染めであふれていた。ここから「ジャパンプルー」という言葉が生まれたそう。



江戸時代の日本橋通りの様子
📷 「日本の歴史3」より引用

本当に江戸時代に藍染めがよくつかわれていたのか気になったので調べてみたよ。

この絵を見ると、お店ののれんじゃ全部青、ほとんどの人の着物も青色（きっと藍染め）なのがわかるね。



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES



東京オリンピックのエンブレム
📷 東京オリンピックHP より引用

たしかに、東京オリンピックのエンブレムも「ジャパンプルー」だった！



藍染めが日本に広まったのは、予想よりもずいぶん後だったけれど、それでも、今から1300年以上まえの奈良時代からあることにおどろいた。そして、藍染めよりむずかしそうな貝染めが藍染めよりも前からあるということも意外だった。

ちょうど昨日池袋駅にいったら、藍染めの洋服を売っていて昔からつくものが、今もその技術が使われているのがすごい。でも、今の着物はいろいろな色で作られているので、いかに技術が発達したのかがよくわかる。

また、日本の国旗は日の丸で赤なのに、「ジャパンプルー」が今も日本を代表するもう一つの色としていろいろなところで使われているぐらい江戸時代に使われていたことにびっくりした。





藍は染めるとなんで青くなるの？

藍染めを体験してみて、藍の葉の汁は緑色なのに、なんで染めた布は青くなるんだろう。

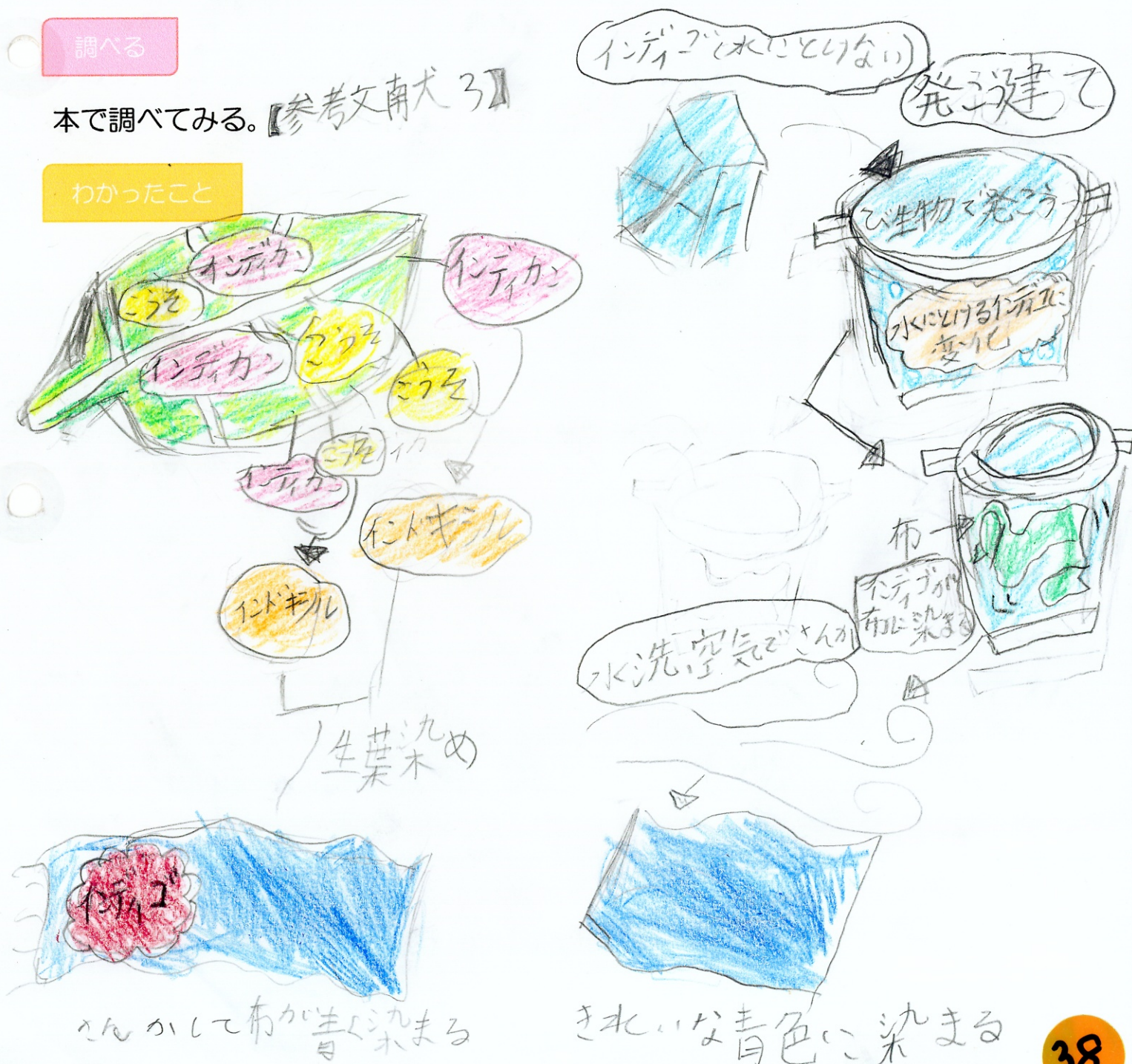
考える

空気と藍の汁が反応してるんじゃないかと思う。だって、藍の葉の染色液（緑色）から布を出したとたんに色が青く変わり始めたから藍のもっている成分と、空気にふくまれる何かの成分が反応しているのではないかと思う。

調べる

本で調べてみる。【参考文献 3】

わかったこと



藍染めが青くなるのは青色素（インディゴ）のおかげである。

藍の生葉には、青色素（インディゴ）はふくまれてない。なので、葉の状態では緑色である。生葉には、青色素インディゴの元になるインディカンという物質がふくまれており、それが変化して、インディゴになる。藍の生葉を水に入れ、ミキサーにかけると、藍の生葉にふくまれているインディカンとこうそが葉から出てきて反応し、インドキシルに変化する。なので、藍の生葉の染色液も緑色。そして、この染色液をせんいにしみこませると、このインドキシルはせんいの中で酸化して、2 個が結合してインディゴに変化して、青く変化するということだ。

この変化する様子を前のページに図で表した。

染色液を作った時も、布を染めた直後も緑色だったのに、だんだん青くなっていたのは作業している間に、藍の生葉にふくまれているインディカンがインドキシルに変化して、また、そのインドキシルが酸化し、2 個が結合して、インディゴに変化したから青く染まったということが分かった。また、ほかの植物も、染めると同じように色が変わるのかが気になった。例えば、ナスのへたでつくった染色液は青かったのに、実際に染めてみるとさいしょの方は、青く染まっていたけれど、最終的には、灰色に染まったから、これと、藍と同じ原理かもしれないと思った。



第5章

伊勢型紙について

1. 伊勢型紙ってどんなものなの？	40～42
2. なぜ伊勢型紙が落合で使われるようになったの？	43
3. 伊勢型紙をつくってみよう！	44～45
4. 型紙にはどんな模様があるの？	46～49



伊勢型紙ってどんなもののなの？

染の里おちあいの江戸更紗染めでつけた型紙は「伊勢型紙」という型紙だった。職人さんは「柿渋を使って丈夫にしている」って言うていたけど、「伊勢型紙」ってどうやって作っているのかな？

調べる

インターネットで調べてみると、鈴鹿市伝統産業会館で伊勢型紙体験ができるとわかったので、行ってみることにした。

8月3日（日）に鈴鹿市伝統産業会館に行って調べた。【参考文献14】

わかったこと

①伊勢型紙の歴史

むかし、むかし、三重県にあるお寺の近くにおじさんが住んでいました。ある朝のこと、そのおじさんが寺の中を散歩していると、虫に食われた桜の葉が目にとまりました。おじさんは、その葉があまりにも美しいので家に持ち帰り、葉っぱを紙の上にあてて虫がくったとおりに、小刀で切りぬきました。切りぬいたその紙をじっと見ていたおじさんは、これで布を染めてみようと思いつきました。これが型紙の始まりだといわれているそうです。そして、この型紙が、伊勢の国（今の三重県）でつくられるので、人びとは「伊勢型紙」というようになったそうです。

②伊勢型紙の作り方

（1）「型地紙」を作る

模様を彫る茶色の紙を「型地紙（かたじがみ）」という。

型地紙はやぶれにくくて伸びにくい紙質の紙が必要である。そこで使われたのが「美濃和紙」である。三枚の美濃和紙を紙の目に沿ってたて・横・たてとベニヤ状に柿渋で張り合わせ、天日干し→くんせいの順で作られる。



型地紙ができるまで（📍 鈴鹿市伝統産業会館）

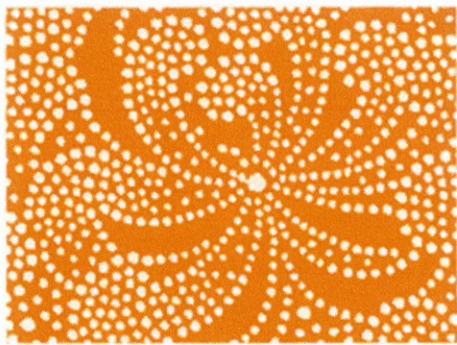
（2）模様を彫る

いろいろな形の刃をしたちょうこく刀で模様を彫る。模様によって4つの彫り方がある。（次のページ）



職人さんが引き彫りをしている様子（📍 鈴鹿市伝統産業会館）

いろいろなちょうこく刃（📍 鈴鹿市伝統産業会館）

しま彫り（引き彫り） しょうぎを使って、しま模様を彫る方法	つき彫り 小刀をまっすぐに立てて、つくようにして前に進める方法
	
道具彫り 刃がいろいろな形に作られているちょうこく刃を使って彫る方法	きり彫り 刃の先が半円形の彫刻刀を回しながら小さな穴を彫る方法
	

（３）糸入れ

しま彫りとか、彫りのこしが少ない型紙は、染めるときに動くので絹糸を入れて動かないようにする。このことを糸入れという。



糸入れされた引き彫りの型紙
（📍 鈴鹿市伝統産業会館）



なぜ伊勢型紙が落合で使われることになったの？

伊勢型紙が作られている三重県鈴鹿市と落合はすごく離れている。新幹線を使っても4時間くらいはかかるし、Google Map で調べてみると400 kmも離れていて歩いたら4日かかる距離だったのに、なぜ落合で、こんな遠くでつくられた伊勢型紙が使われるようになったのか気になった。

考える

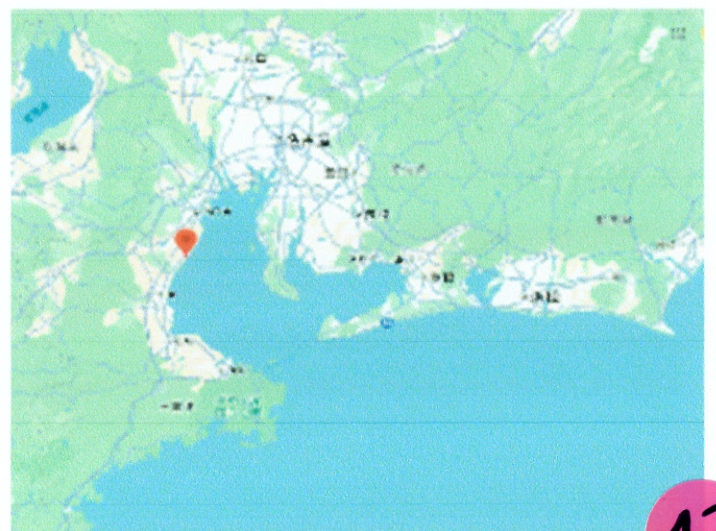
伊勢型紙の職人がたまたま東京に来て東京の人に伊勢型紙のことを教えて、東京の人が「うおおおおお！」って伊勢型紙の模様の細かさや、きれいに切り取る技術におどろいて、「これを染物で使ってみたい！！」ってなったと思う。

調べる

鈴鹿市伝統産業会館に行って調べてみる。【参考文献 14、16】

わかったこと

江戸時代になると、紀州藩（今の和歌山県のあたり）の保護をうけて、伊勢型紙は鈴鹿市白子と寺家を中心に盛んになった。また、白子と寺家は伊勢湾に面して（下の地図参照）おり、物のやり取りがさかんだったため、ほかの地域にも伊勢型紙が広がっていった。また、型売り業者が各地に型紙を売り歩き、伊勢型紙が全国に広がっていった。



白子・寺家の位置

 Google Map より引用



伊勢型紙をつくってみよう！

鈴鹿市伝統産業会館では、伊勢型紙作りの体験ができるので体験してみたよ！

①準備

どんな模様の型紙を作りたいかを選ぶ。型地紙に模様が書いてある紙を貼る。



型地紙はしま模様がこく出ている方がうら。
ツルツルしてきれいな方が表なんだって。お花や
動物、雪だるまやサンタクロース、鈴鹿の名さん品
(いせえびや車) などいろいろな模様があったよ。



私がえらんだ伊勢型紙
(📷 私)

②彫る

黒いところの周りを切り落とすように小刀で切っていく。丸い部分は丸い部分を
切り取るせんようの道具を使う。いろいろな大きさの丸を切り取る道具がある。



型紙を彫っている様子
(📷 母)



彫りに使った小刀
(📷 母)

今回、実演をしてくれた引き彫りの職人さんは、型地紙を10枚重ねて、まとめて型を作っていた。1枚の型地が実で型を彫るのにもけっこう力が必要だったので職人さんは人さし指がいたくならないのかが気になった。また、私は1枚彫るだけでもはじがくっついたり、ガタガタになってしまったりしてうまく切れなかったの、職人さんは本当に細かい作業なのにちゃんと切れていてすごいと思った。

型を彫るときには、紙がゆがまないようにするために、大きい模様や長い模様は後回しにして、細かいところからやるとよいことがわかった。

職人さんは、江戸更紗のように何枚も型紙を重ねて1つの染め物が完成するように考えたり、着物のように長い物を染めるために型紙の模様がつながるようにデザインを考えたりするのも仕事だと言っていました。頭がよくないとできないなと思った。



鈴鹿市伝統産業会館 📷 母



鈴鹿市伝統産業会館の中には
「ポケふた」(ポケモンのマンホール)があるよ！



型紙にはどんな模様があるの？

伊勢型紙を作った時に、いろいろな種類の型紙があった。どんな種類の型紙があるのか調べてみたいと思った。

考える

植物、動物など自然の物が多いんじゃないかなと思った。

調べる

本で調べてみる。【参考文献 5 】

わかったこと

江戸小紋の型紙にはたくさんの種類があることが分かった。大きく分けて7つに分けられることがわかった。

(1) きかがく模様

「わり付模様」ともよばれ、まっすぐな線、まがった線、点や、三角形、四角形、ひし形、六角形などの、同じ形をくりかえしてできた模様です。むかしの奈良時代から使われていて、江戸時代には布をそめるときの模様「さだめこもん」として、多くの大名に人気があった。

(例) 市松模様 さめ 分銅つなぎ きくびし

(2) 植物模様

松・竹・梅は、おめでたいことをあらわす模様。桜や菊などの日本を代表する花もお祝いの時に大切に使われてきた。また、しょうぶやもみじ、秋の七草などの模様には、四季を楽しみ、自然に親しんできた日本人の美しい心がこめられている。

(例) 野菜づくし 梅づくし さくら吹雪 流水に紅葉

(3) 動物模様

長生きのしるしとされる、ツルやカメは、けっこん式やお祝いにぴったりの模様。なかよし夫婦をあらわすオシドリは、小さな模様だけでなく、着物のとめそでもよくえがかれる。ほかにも、見た目がすすしそうなメダカや、かわいらしいスズメなど、みちかな動物をえがいた模様もたくさんある。

(例) 鶴の丸 めだか ふくらすずめ みの亀

(4) 自然模様

川や海、野山の景色など、自然を模様にした江戸小紋もたくさんある。特に「流水」は、水のながれをあらわす模様で、おだやかな流れや、はげしい流れなど、いろいろな形がある。そこに草花や景色をそえると、季節のようすをもっとはっきりとこと表す事がある。

(例) 流水 秋の草花 波 大小霞

(5) きぶつ模様

御所車や船などの乗り物や糸車や扇子などの日用品、弓矢や刀といった武具など、人間が生み出したものも小紋の題材にされた。豊かさや男性らしさ、女性刺し差の象徴であり、文様に人々の希望や願いが込められている。

(例) つばづくし ひおうぎ 矢羽根

(6) れつとり模様

いろいろな模様の布をつなぎ合わせたように見えるもようのことをまとめていう。雲のような曲線で区切ってもようを入れたものを「雲取り（くもどり）」、かすみのような曲線で区切ったものを「霞取り（かすみどり）」という。ひとつのもようの

中に、ほかのもようを入れると、昔ながらの落ち着いたふんいきや上品さを残しながら、立体的でおしゃれな感じになり、目をひくもようになる。

(例) 裂取り小もん

霞取り小もん

(7) お店のオリジナル

喜多川歌麿など、江戸時代を代表する浮世絵師の名作からとった、オリジナルのもようである。江戸時代の人々が着ていた着物のもようをそのまま再現すると、モダンで上品なふんいきにそまり、今の時代の女性のセンスにもよく合う作品となっている。

(例) 市松さくら

花さらさ

予想したように、植物や動物など自然の物がほとんどだった。自然の物は、昔も今もほとんど姿が変わらないから模様として取り入れられているんだと思う。ただ、自然の物だけだと、あきてしまうから、お店オリジナルの模様も作っているんだと思う。

わたしだったら、好きなキャラクターの模様の型紙を作ってみたいな。



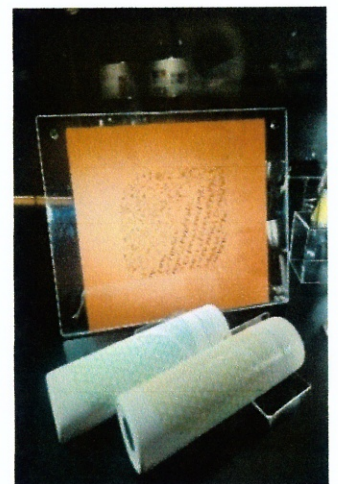
(1) きかがく模様	市松模様	さめ	分銅つなぎ	きくびし	
(2) 植物模様	野菜づくし	梅づくし	さくら吹雪	流水に紅葉	
(3) 動物模様	鶴の丸	めだか	ふくらすずめ	みの亀	
(4) 自然模様	流水	秋の草花	波	大小霞	
(5) きぶつ模様	つばづくし	ひおうぎ	矢羽根		
(6) れつとり模様	裂取り小もん	霞取り小もん			
(7) オリジナル	市松さくら	花さらさ			

〇おわりに

最初は、何で都庁がある新宿区の落合で染め物がさかんになったのかが気になったけど、調べてみて、落合は染め物をするのにさいてきな場所だということが分かった。今までは染め物がさかんだということを知らなかったから気が付いていなかったけれど、私の家のすごく近くに染物屋さんがあって、藍染めののれんがかかっていた。昔は落合に200件あった染物屋さんが今は10件くらいしか残っていないそうだ。卑弥呼の二ホンアカネ染めが今も体験できるのは、これまで染め物がちゃんと伝わってきたし、染め物は日本の大切な文化だと思うから、これからも大切に残ってほしい。

大阪関西万博に行った時、伊勢型紙が展示されていた。伊勢型紙は、世界にほこる技術なんだと思う。だけど、江戸更紗染めるときに職人さんが「伊勢型紙の職人さんが減っているから、今残っている型紙を大切に使っていけないといけない。」と言っていた。伊勢型紙の職人さんが減ってしまったのは、そもそも「伊勢型紙」のことをほとんどの人が知らないうえに、今は着物を着ることもほとんどなくて伊勢型紙を使う機会が減っているからだと思う。

染め物や伊勢型紙などの日本の大切な文化を守っていくために、まずは使うことが大切だと思った。でも、着物を着る機会はほとんどないから、江戸小紋の髪ゴムとか、江戸更紗のテーブルセンターとか染め物の小物を使っていきたい。そして、染め物や伊勢型紙のすごさを友達に知らせて、まずは、そんざいを知ってもらって、そこから興味をもってくれるとうれしいなと思った。



大阪関西万博に
展示されていた伊勢型紙

私

参考文献

【本】

NO.	著者名	書 名	出版社名	出版年	ページ	図書館名
①	山崎 和樹	草木染の絵本	農山漁村文化協会	2006	36	豊島区立目白図書館
②	山崎 和樹	藍染の絵本	農山漁村文化協会	2007	36	購入
③	日下部 信幸	アイの絵本	農山漁村文化協会	1999	36	購入
④	春田 香歩	花・木の実・藍・野菜・葉っぱのかんたん染めもの	偕成社	2018	95	豊島区立富士見台小学校図書館
⑤	高橋 矩彦	染の里二葉苑江戸小紋柄図鑑	スタジオダッククリエイティブ	2009	159	新宿区立中央図書館
⑦	青木 正明	天然染料と衣服	日刊工業新聞社	2022	207	豊島区立池袋図書館
⑧	内田 克幸	伝統工芸のきほん④	理論社	2018	39	豊島区立目白図書館
⑨	千葉 均	調べてみよう！日本の伝統工芸のみりょく2 衣に関わる伝統工芸2 染物とアクセサリー	大日本印刷	2020	47	豊島区立目白図書館
⑩	菅野 則子	ポプラーディア情報館 日本の歴史3 江戸時代	ポプラ社	2009	223	豊島区立目白図書館

【見学場所】

No.	見学場所	住所
⑪	染の小道	西武新宿線 都営地下鉄大江戸線 中井駅周辺
⑫	染の里 おちあい	〒161-0034 東京都新宿区上落合 2-3-6
⑬	戸塚地域センター・親水テラス	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-18-1
⑭	鈴鹿市伝統産業会館	〒510-0254 三重県鈴鹿市寺家 3-10-1
⑮	大阪・関西万博	〒554-0044 大阪府大阪市此花区夢洲中1

【インターネット】

No	Web ページを制作した人 団体名	Web ページ名	Web サイト名	URL
⑯	Google	Google マップ		https://www.google.co.jp/maps
⑰	国際オリンピック委員会	東京 2020 ブランド	Olympic Games Tokyo 2020	https://www.iz2.or.jp/fukushoku/f_diso.php?page_no=00000002
⑱	東京都産業労働局	東京の伝統工芸品	Traditional crafts of Tokyo	https://www.dento-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/items/18.html
⑲	草木工房 ひとつ屋	ひとつ屋染織農園	草木工房 ひとつ屋	https://hitotsuya.com/farm/

ふろく

1. ニホンアカネの絞り染め
2. 江戸更紗
3. 江戸小紋
4. 藍の絞り染め
5. 伊勢型紙

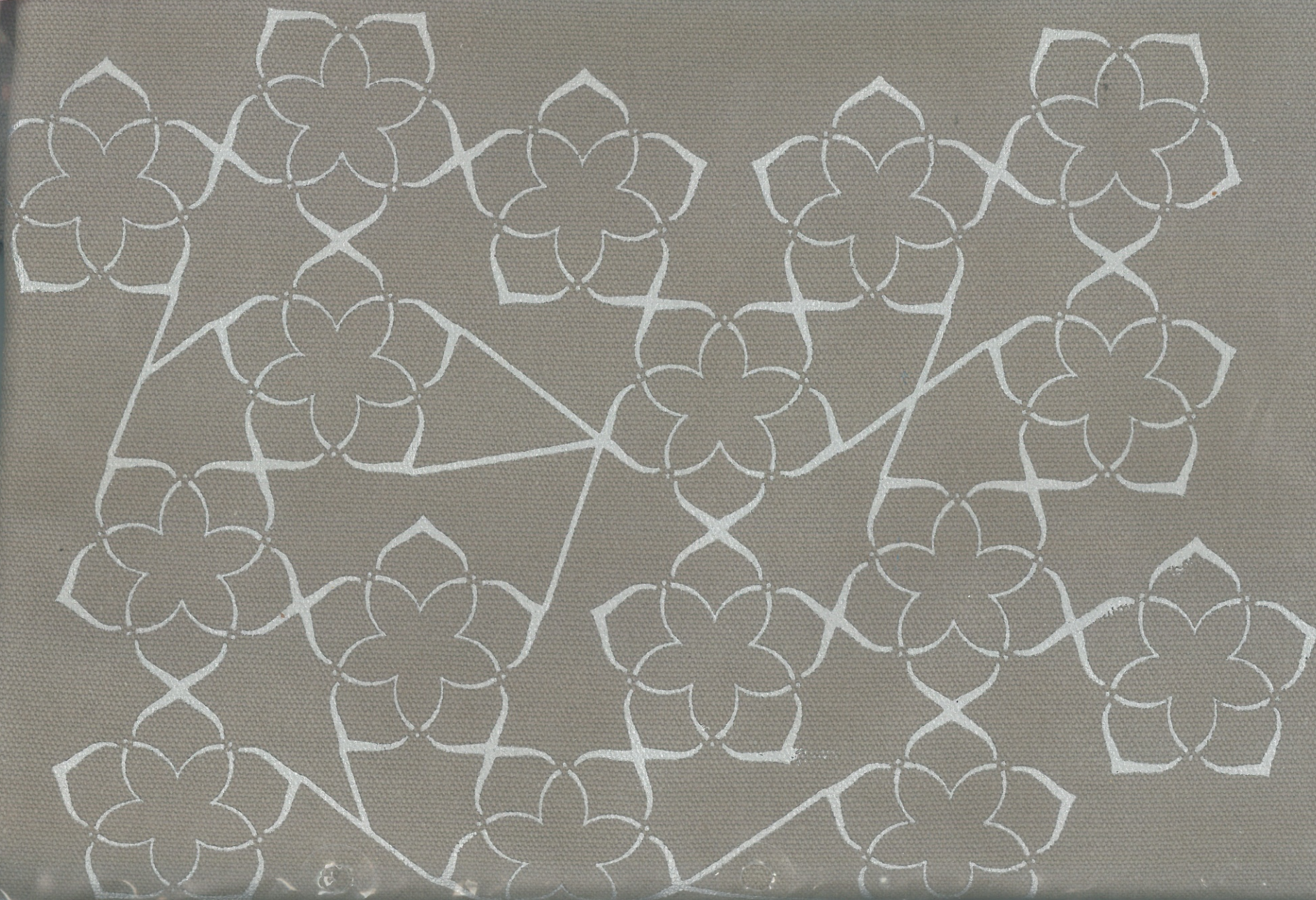
1
ニホンアカネの絞染め



2 江戸更紗



3、江戸小紋



4 藍の絞り染め

5 伊勢型紙



ソガ



ソガ



暮らしと
伊勢型紙

Better Life with Ise Katagami.

OKOSHI KATAGAMI

藍

Polygonum Indigo

